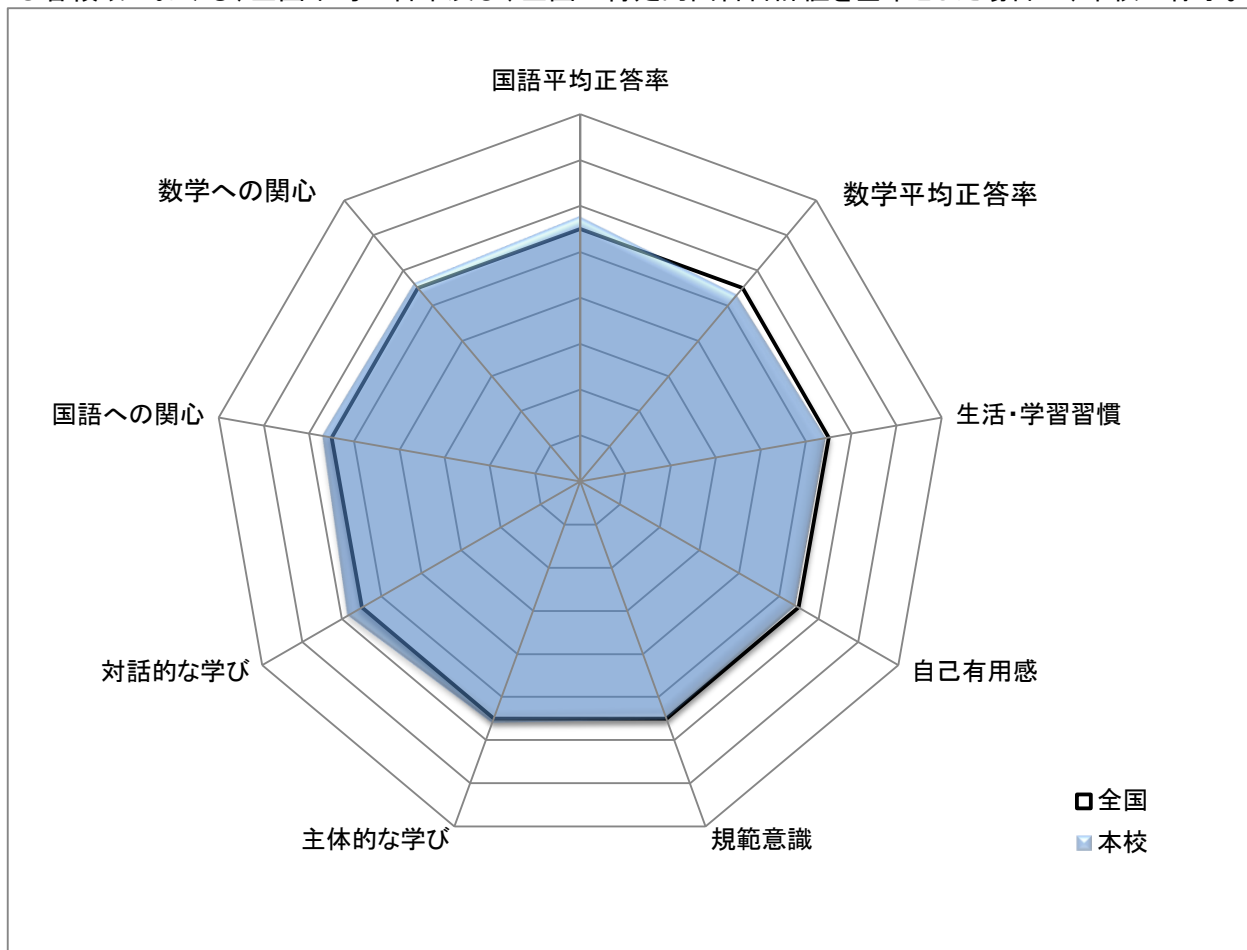


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

【国語】  
 全国平均 +3.4ポイント  
 評価の観点のうち、特に高かったのは、読む能力で、全国平均+5.4ポイントであった。書く能力、言語についての知識・理解・技能も約+3ポイントであった。

【数学】  
 全国平均 -2.2ポイント  
 評価の観点は、3観点ともに全国平均を大きく下回った。特に低かったのが、数学的な見方や考え方で、全国平均-6.0ポイントであった。

《授業改善のポイント》

【国語】  
 基礎基本を徹底するとともに、個々に応じた課題について助言をしていく。また、文字を書く楽しさ、喜びを味わわせる。ICTを活用しつつ、アクティブラーニングを意図的に取り入れ、生徒たちの語彙が増し、考えが深まる授業実践を心掛ける。

【数学】  
 基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得させるとともに、思考力・判断力・表現力を育てるために、言語活動の充実を図り、ICTを活用する。  
 生徒の習熟度に合わせた授業展開を心掛け、補助的な教材を用意して生徒のレベル、単元内容に合った指導をする。

《チャートの特徴》

レーダーチャートに表れているように、ほとんどの項目においてほぼ全国平均と同程度である。全国平均と比較して細かく見ていくと、生徒質問紙からわかる、「生活・学習習慣」が0.99、「自己有用感」が0.98と若干低い、「規範意識」が1.00、「主体的な学び」が1.02、「対話的な学び」が1.07と、同程度か上回っていた。「国語への関心」、「数学への関心」も全国平均と比べ、1.04、1.02であり、多くの生徒が学習に前向きに取り組もうとしていることがうかがえる。国語の平均正答率は1.05で全国平均をやや上回っていたが、数学の平均正答率は0.96であり、授業改善が必要であると考えられる。

《家庭・地域への働きかけ》

学校に対して協力的な家庭が多い。本校の現状及び課題については、三者面談や保護者会、学校だより、学年だよりなどを通して認識していただき、家庭学習の大切さ、生活習慣・生活リズムの改善などを呼びかけ、学力の定着を図っていく。